慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	編集後記
Sub Title	
Author	有末, 賢(Arisue, Ken)
Publisher	慶應義塾大学法学部
Publication year	2008
Jtitle	慶應の法律学 公法I : 慶應義塾創立一五〇年記念法学部論文集 (2008.)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Book
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=BA88452463-00000001-0398

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

『慶應の法律学――慶應義塾創立一五〇年記念法学部論文集』六冊、『慶應の政治学――慶應義塾創立一五〇年記念法学部論文集』五冊、『慶應の教養学――慶應義塾創立一五〇年記念法学部論文集』一冊の計一二冊がここに刊行されることになった。ここまでたどり着くまでには多くの時間と労力が払われている。二〇〇七年五月に当時の小此木政夫学部長から記念論文集の刊行が提起され、編集については法学研究編集委員会に委ねるという決議が教授会でなされた。そして、当編集委員会では、六月下旬には法学部専任者、慶應法学会会員等に対して執筆依頼状を発送した。当初は、法律学、政治学、日吉篇の三冊を基本に考えていたが、二〇〇八年一月に実施したアンケート調査によって、法律学関係で一〇〇篇、政治学関係で九〇篇、日吉関係で二五篇の論説が予定されるなど大部な刊行になることが予想された。そこで、今回は法学研究編集委員会内部に委員長、編集主任を中心とする少数の小委員会で動きやすくして、編集体制を整えた。そして、ここに計一二冊（法律学六七篇、政治学五四篇、教養学一八篇）の一五〇年記念法学部論文集が完成したわけである。

今回、百周年、一二五周年の時と比べて工夫が凝らされたのは、法律学については公法Ⅰ、公法Ⅱ、刑事法、民事法、商事法、民事手続法、政治学については政治・社会、政治思想、日本政治、地域研究、国際政治などの内容による巻構成を取ることができた点である。この二五年間に、慶應法学会のメンバーも拡大し、学問領域も細分化しており、「教養学」も含めて扱われているテーマは非常に多様になっている。今回の編集において私が最も強く感じたのは、それだけ学問領域が細分化し、それぞれの学者・研究者の関心も多様化していてもなお、われわれが「慶應義塾大学法学部」への強い愛着を持ち、記念論文集に結集していく「心意気」のようなものであった。一二五周年記念論文集の「編集後

記」を執筆された当時の法学研究編集主任の宮澤浩一名誉教授は、「大学という学問共同体は、その構成員の交代を繰り返しつつ永続性を保持する。記念論文集に寄稿された執筆者のうち、最も若い諸君が、創立一五〇年記念号の編集の中心となるのは歴史的順序である。」と述べられている。実際に一二五年のときに、最も若かった執筆者の一人は私であり、その意味で今確かに「歴史的順序」を実感しているわけである。私が法学部に就職してから以後に、慶應義塾創立一二五年（一九八三年）、政治学科設立九〇年（一九八八年）、法律学科開設百年（一九九〇年）、政治学科開設百年（一九九八年）、そして今回の慶應義塾創立一五〇年（二〇〇八年）とある意味でイベント続きであった。それぞれに記念論文集などを刊行しており、長い歴史のちょうど節目の時期に法学部に在職していたことになる。

本論文集が作られるまでには、国分良成学部長、朝吹亮二日吉主任をはじめとして多くの同僚諸氏から温かいご支援をいただいた。もちろん、ご協力いただいた慶應法学会各位にも深謝したい。特に坂原正夫委員長には、委員長の重責にありながら絶えず気を配り、一五〇年記念論文集の刊行を実現できたのもひとえに坂原委員長のご努力の賜物である。記して感謝したい。いつも論文集の刊行を気にかけていただいた小此木政夫前学部長、実際の編集業務に関わっていただいた法学研究編集委員の各位にも感謝したい。

また、法学研究編集委員会事務局の塚越絹子さん、小野裕子さんにも通常の業務にプラスして働いていただいたことを感謝したい。そして最後に、慶應義塾大学出版会の有能な編集者である堀井健司さん、岡田智武さん、村山夏子さん、乗みどりさんの四氏には、誠にお世話になった。この方々がいなければ、とても本年中には刊行できなかったことは言うまでもない。記念すべき塾創立一五〇年の年末を飾る大事業に感謝の拍手を贈りたい。

二〇〇八年一一月三〇日

法学研究編集主任　有末賢